

# 河井継之助

-改革者の成功と失敗から学ぶこと-

2024年6月8日  
横浜歴史研究会  
高津正治

# 本日の発表内容

- 1、取り上げた理由
- 2、調査方法
- 3、河井継之助のプロフィール
- 4、遊学について(山田方谷との出会い)
- 5、藩政改革への取り組み(改革者の成功)
- 6、北越戊辰戦争(改革者の失敗)
- 7、その後の長岡藩と人々の運命

# 取り上げた理由

- 現役時代に仕事で新潟県に出張しており、新潟の歴史に興味を持っていた。河井継之助についても色々と話聞いており、地元ではかなり有名なことに興味を覚えていた。
- 2022年6月に司馬遼太郎作「峠」が映画化されて、同年9月に旅行仲間で「河井継之助の足跡をたどる旅」を行った。
- 戊辰戦争時の問題だけでなく、最近の世界的な紛争をみると、意思決定者の判断が重要であり、判断ミスが致命的な悲劇をうみだしていると考えられる。改革者である「河井継之助」の成功例と失敗例から、私達も考えるべきことがあると思い、このテーマを取り上げた。

# 調査方法

- **実地見学調査**

映画「峠」公開後の2022年の9月に友人達と新発田・三条・長岡などを旅行して実地見学調査を行った。

- **文献などの調査**

国会図書館の蔵書やオンライン検索などで参考文献や資料等を閲覧し調査した。

- **聞き取り調査**

過去の分を含めて、現地の方々への聞き取り調査を行いご意見を伺った。

# 河井継之助のプロフィール

- 1827年(文政10年)1月1日、河井代右衛門の長男として越後長岡に生まれる。家は長岡藩牧野家の家臣で禄高120石。母の名は「さだ」で長谷川氏。
- 1838年(12歳)この頃から文学や剣道、槍術、弓術、馬術を学ぶ。陽明学も学び優秀だった。
- 1850年(嘉永3年・24歳)春に藩士榎野嘉兵衛の妹「すが」(16歳)と結婚。
- 1852年(26歳)春に江戸へ遊学し斎藤拙堂や古賀茶溪、佐久間象山に学ぶ。年末に帰国。
- 1853年(27歳)藩候・牧野忠雅に建白して評定方随役に抜擢される。30石。
- 1854年(安政元年・28歳)門閥に妨害され失脚する。
- 1856年(30歳)川島億二郎と温海、石巻、仙台などを遊歴する。
- 1857年(31歳)父の代右衛門が隠居したので家督を相続する。
- 1858年(32歳)外様吟味役に登用される。宮路村の長年の村民のもめ事を解決する。
- 同年12月28日再び江戸への遊学の途につく。

# 遊学について

- (1) 1852年春～年末、1回目の江戸遊学・・・春に江戸へ遊学し斎藤拙堂や古賀茶溪(久敬舎に入る)、佐久間象山に学ぶ。
- (2) 1858年暮より2回目の江戸遊学・・・再度久敬舎に入る。
- (3) 1859年6月7日に江戸を発し、7月17日に備中松山(現高梁市)の山田方谷を訪ねて藩政改革の手法等を学ぶ。
- (4) 1859年9月18日、松山を発ち四国・九州を遊歴して11月3日に松山に戻る。(3)、(4)に関しては旅行記「塵壺」に詳しく記載あり。
- (5) 1860年春、松山を辞して江戸で三度び久敬舎に入る。
- (6) 1860年夏、久敬舎を辞して長岡に帰る。

# 山田方谷との出会い

- 「塵壺」には山田方谷宅への訪問も詳しく書かれている。
- 1859年（安政6年）6月7日に江戸を出発して、7月16日に備中松山に到着して旅人宿「花屋」に泊まる。
- 「花屋」を起点として山田方谷宅を訪問するも、方谷は開墾の実践で離れた場所におり行き違いが多かった。
- 7月20日に藩侯の別宅（水車）で方谷に会い弟子入りする。
- 山田方谷宅に逗留する間に色々な経験を積む。方谷宅には弟子たちもおり、意見交換や議論から色々と学んだ様子である。
- また山田方谷から藩政改革の話聞き、将来の糧とした。別れの際に「王文成公全集」を譲渡された。（方谷の意見書付）

# 藩政改革への取り組み

- 儉約の実践。賄賂の撤廃。
- 賭博の禁止と遊郭の廃止。
- 中ノ口川の水門を作り灌漑事業を行う。
- 藩士の俸禄の平準化。
- 信濃川の通行税などの免除。株仲間の廃止。
- 豪商の援助を受ける。（今井孫兵衛）
- 江戸屋敷を引き払うときは財産を処分して利益を得た。
- 基本的には重商主義政策と富国強兵政策。

# 長岡城址（長岡市役所前）



# 北越戊辰戦争(1868年慶応4年)①

- 1月3日鳥羽伏見の戦い(幕府より大阪城下の警備を命じられていた。)
- 1月6日藩公牧野忠訓らと江戸に向かう。
- 3月3日江戸藩邸を整理してガトリング砲や小銃を購入し江戸を出港。
- 3月28日箱館経由で長岡到着。(箱館で米を売り儲ける。)
- 4月14日中島において藩兵の大規模訓練。
- 閏4月19日北陸道参謀の山県狂介と黒田了介が高田到着。
- 閏4月26日河井継之助軍事総督になる。摂田屋に本陣を置く。
- 閏4月27日新政府の山道軍が会津軍を破り小千谷に侵攻して本営を置く。
- 閏4月28日新政府の海道軍が桑名軍を破り柏崎に本営を置く。
- 5月2日小千谷の慈眼寺で河井継之助が新政府軍軍監岩村精一郎と会談。

# 北越戊辰戦争(1868年慶応4年)②

- 5月3日会談決裂で継之助は新政府軍との開戦を決意し、摂田屋本陣で諸隊長に伝える。
- 5月4日長岡藩開戦決定。奥羽列藩同盟に加盟。
- 5月11日朝日山争奪戦が始まる。8月まで長岡は戦場となり焦土と化す。
- 5月19日新政府軍信濃川を渡河して長岡城を急襲し占拠する。長岡藩主は会津へ落ちのび、長岡軍と継之助は栃尾へ退却する。
- 5月21日奥羽越列藩同盟軍は加茂に集結して本陣を置く。
- 6月2日同盟軍は反撃を開始し、今町を占領する。新政府軍は戦線を後退させる。
- 6月14日新政府軍、会津征討総監に仁和寺宮を任命して兵力を増強する。
- 7月17日同盟軍は湿地帯八丁沖越えの長岡城奪回作戦を討議して決定する。
- 7月25日同盟軍長岡城を奪還し、新政府軍は川を渡って退く。継之助銃撃で重傷を負う。。
- 7月29日新政府軍長岡城を再奪取する。長岡軍は八十里越を通過して会津へ敗走。
- 8月16日継之助、会津塩沢(現只見町)で没する。(42歳)

# ガトリング砲



# その後の長岡藩と人々の運命

- 1868年10月6日牧野忠訓、米沢で新政府軍に降伏帰順する。（会津は9月22日に降伏開城）
- 12月7日長岡藩は改易の上、再興を許可される。
- 12月22日牧野忠毅、藩主就任。
- 1869年（明治2年）河井家、家名断絶。（1884年に家名再興）
- 長岡の人々は会津への難民となり、帰還しても焼け野原で窮乏する事になった。（米百俵の話など）

# 長岡藩主牧野家の墓



# 河井家の墓



# 参考文献

- 「河井継之助伝」 今泉鐸次郎 目黒書店 1931
- 「河井継之助」 安藤英男 新人物往来社 1973. 3
- 「塵壺 河井継之助日記」 安藤英男校注 平凡社東洋文庫 1974. 8
- 「戊辰戦争(敗者の明治維新)」 佐々木克 中公新書 1977. 1
- 「河井継之助のすべて」 安藤英男編 新人物往来社 1981. 5
- 「怪商スネルと戊辰新潟攻防戦」 阿達義雄 鳥屋野出版 1984
- 「裏切り」 中島欣也 恒文社 1988. 8
- 「新潟県の歴史」 田中圭一他 山川出版 1998. 1
- 「現代語訳 塵壺 河井継之助記」 竹村保 雑草出版 2010. 2
- 「決定版 河井継之助」 稲川明雄 東洋経済新聞出版社 2012. 8
- 「兵器と戦術の世界史」 金子常規 中央公論新社 2013. 10
- 「河井継之助 近代日本を先取りした改革者」 安藤優一郎 日本経済新聞出版社 2018. 3
- 「明治維新・隠された真実」 日本経済新聞出版社 2019. 5
- 「知られざる幕末の改革者 河井継之助」 稲川明雄 アルファベータブックス 2022. 6